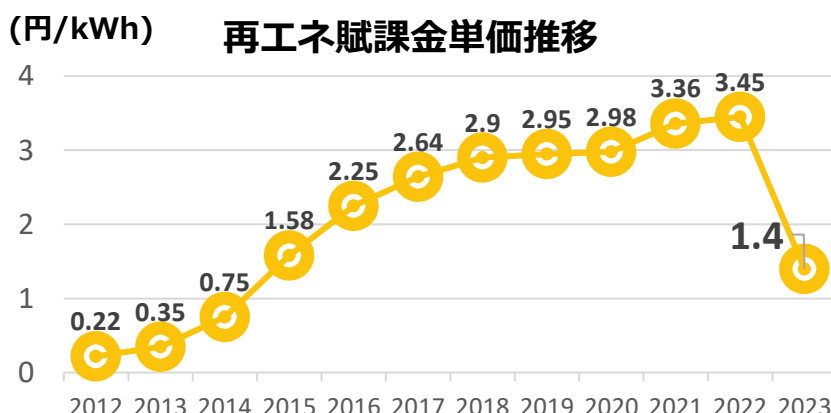


2023年6月号のテーマは！
再エネ賦課金単価が初の値下げ！

再エネ賦課金単価の推移

再エネ賦課金とは正式名称を「再生可能エネルギー発電促進賦課金」と呼びます。太陽光や風力などの再エネによって発電された電気を、電力会社が買い取る際に必要な費用の一部を国民で負担する制度になっており、**電気料金の一部**として毎月支払われています。



毎年度5月より新しい再エネ賦課金単価が適用されます。

2023年度には**1.4円/kWh**となり、前年度からの差は-2.05円/kWh、変化率は-59.4%となりました。

左のグラフからも分かるように、再エネ賦課金単価が値下げすることは制度が始まって以来初の出来事となりました。

再エネ賦課金単価が値下げした理由

<賦課金単価算定根拠>

賦課金単価 1.40 円/kWh =

(① 買取費用等 4 兆 7,477 億円 - ② 回避可能費用等 3 兆 6,353 億円 + 広域的運営推進機関事務費 9 億円※)

÷ ③ 販売電力量 7,946 億 kWh

	2022年度想定	2023年度想定
①買取費用等	4兆2,033億円	4兆7,477億円
②回避可能費用	1兆4,609億円	3兆6,353億円
③販売電力量	7,943億kWh	7,946億kWh

再エネ賦課金値下げの背景には電力の**市場価格高騰**があります。

再エネ賦課金は①**買取費用等**から②**回避可能費用等**を差し引き、事務費用を加算して、販売電力量で割ることによって算出します。

「**回避可能費用等**」とはFIT・FIPの買取によって、火力発電等の本来予定していた発電を取り止め、支出を免れることができた費用のことです。

2022年度は燃料価格の高騰によって電力の市場価格が上がったことにより、回避可能費用も比例して上がりました。そして上記の計算式に当てはめた結果、再エネ賦課金が下がることになりました。



弊社の施工事例をご紹介します！



業種	製造業
設置場所	香川県
システム容量	28.98kW
プラン	余剰売電
年間発電量	31,263kWh
電気代削減 売電収入	586,007円/年
投資回収年数	8年



担当者

工場の従量電灯に太陽光を接続、屋根の面積も比較的大きかったので、自家消費＋余剰売電で設置。またソーラーシェアリングも導入、農業としてブルーベリーを栽培しながら太陽光発電を行っており、脱炭素の取組に注力されている企業です。

よくあるご質問

Q1 導入後、メンテナンスは必要ですか？

A1

太陽光発電は過酷な自然環境の中、長期間発電をおこないます。法律で義務化されている発電所を含め、定期的なメンテナンスが必要となります。

Q2 設置にはどれくらいの屋根の広さが必要ですか？

A2

屋根形状等の状況にもよりますが、最小10m²程度あれば設置可能です。屋根のサイズや電気使用量に合わせた設置容量をご提案しております。屋根が難しい場合、空き地や駐車場を活用したご提案も可能です。

 **未来環境エネルギー計画** 株式会社

☎088-660-6667

受付時間 9:00～18:00（休業日：土日祝）

住所：〒771-0204 徳島県板野郡北島町鯛浜字川久保87番地1
FAX：088-660-6668
Email：support@mirai-ecoene.com 担当：亀谷

▼徳島で自家消費型太陽光なら未来環境エネルギー計画▼

未来環境エネルギー計画

検索

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

